

## 駒ヶ根市文化財

名称	大宮五十鈴神社の三国一
種別	民俗・芸能
指定	市・民俗文化財(平成 29.7.25)
所在地	赤穂 2827
所有者	大宮五十鈴神社
説明	<p>『大宮五十鈴神社』(平成 10 年 7 月 28 日発行)によると、県下で神社の祭りに三国花火を奉納するのは南信地区に限られていて、大宮五十鈴神社が北限といわれている。この花火を五十鈴神社では「三国一」と呼んでいる。</p> <p>三国とは、日本、唐(から)(中国)、天竺(てんじく)(インド)を指し、世界一の意味に用いられる。</p> <p>「三国一」は明治 41 年(1908)上穂八社合祀第 1 年の記録に、三国 1 本製造費 37 円 10 銭とあって、この頃からと思われる。</p> <p>「三国一」は御神木と呼ばれる筒の準備から始まる。樹齢 80 年位の素生の良いアカマツが選ばれる。仮見立、本見立、神事、伐採、搬出、火薬の穴明け、青竹のタガ巻と進められる。そのつど年番区の三国隊長等が参加する。筒は初三国一、大三国一、と 2 本用意される。宵祭りの早朝、三国隊は神社前で、神迎え、火入れの神事後、煙火店に急行、5 時間かけて諸準備を行う。</p> <p>獅子練り奉納後、祭典祭年団は競(きおい)隊を組み、区内を競う。詰め込み作業の三国隊は、「三国一」を車に載せ、披露のため三国競い隊を編成する。</p> <p>上穂では両者がすずらん通り東口で合流する。木遣(きやり)隊の三国木遣りがあって、三国隊長が口上を述べる、三国披露の大切な見せ場である。</p> <p>夜、打ち上げ時間が迫ると、境内から競い隊に伝令が走る。据付の木遣りに合わせて「三国一」の筒が高い架台上に引き揚げられ固定される。準備が成るとすべての灯火が消され、神代の昔に帰る。</p> <p>前段の「小三国」に点火され、轟音が走り工夫された仕掛けがきらめく、時を見計って綱火が飛び「大三国一」に点火される。白い御幣が炎に舞い上がる。筒先から火流を噴き上げ、滝しぶきとなって広がる。火流が春夏秋冬を表現し、4 段に彩りが変化してゆく。競い隊は、粋な腹掛け姿で、あらわな肩に、背にきらめく火花を浴びている。火祭りの名にふさわしい「大三国一」である。</p>

